

## 平成30年度 公開講座（短期課程）

担当科名	機械システム系メカトロニクス科
担当者名	山口俊憲
コース名	ものづくり革新・改善のための人材育成セミナー <b>(5)コミュニケーションスキル向上</b> ～相手に伝わる発話による情報伝達、マニュアルの作成方法と活用方法～
実施日時	① 平成30年11月14日（水） 18:00～21:00 ② 平成30年11月21日（水） 18:00～21:00 ③ 平成30年11月28日（水） 18:00～21:00 ④ 平成30年12月 5日（水） 18:00～21:00 ⑤ 平成30年12月12日（水） 18:00～21:00 （計15時間）
募集定員	6人（申込者多数の場合最大12名程度まで）
募 集 対 象	対象職種：不問（講座名がものづくりになっておりますが、事務系・技術系を問わず様々な業種・職種の方が参加可能です。） 受講に必要なレベル：不問（受講生の状況・希望に応じて内容を調整）
注 意 点	ものづくり革新・改善のための人材育成セミナー(1)～(6)は企業などとの連携を通じて実際に現場改善に取り組む同一講師が全て担当しています。講座(1)～(6)の全てを受講することで、ものづくり改善に必要な知識を体系的に習得できますが、各講座を単独で受講しても理解できるような工夫をしています。例年、一つの講座を受講される方、全て受講される方、数年かけて全てを受講される方がいらっしゃいます。また、このセミナーは社会人を対象とした1年課程の「産業技術専攻科ものづくり改善コース」とも一部連携しています。現場の課題解決に具体的に取り組みたい方は専攻科の活用もご検討ください。
講 座 内 容	事故・損失の未然防止、効率性向上のためには、組織内外で意志疎通を誤りなく行う必要があります。この意思疎通を誤りなく行うためには発話コミュニケーションだけでなく、標準作業要領、マニュアルの作成などの文書による情報伝達も注意する必要があります。本講座では、担当講師が実験や大学の講義で取り組んできた結果や文献に基づき、誤りなく伝達を行うための方法を習得します。なお、この講座で用いているコミュニケーショントレーニングツールは担当講師が開発したもので、様々な企業の職員を対象としたトレーニング等でも用いています。
目 標	発話や文書でのコミュニケーションが円滑になること。
履 修 項 目	①コミュニケーションの失敗による影響 ②コミュニケーション、伝わったかの確認 ③発話による情報伝達演習 ④文書による情報伝達演習 ⑤マニュアル・標準作業書の作成方法と管理 ⑥組織における効果的な情報共有

使用装置 ソフト・ 図書等	特になし					
受講 費用	受講料：6,900円（15時間コース）					
	自己負担：	円（テキスト：	円・材料費：	円）		
講座費用	報償費	円	印刷製本費	円	材料費	円
	費用弁償	円	消耗品費	円	通信運搬費	円
	普通旅費	円	使用賃借料	円		
その他	<p>○セミナー全体の構成変更について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまで生産改善を中心とした内容でしたが、効率化で得られた余裕をコスト削減だけでなく、付加価値のある製品づくりに活用できないかと考えています。そこで、これまで行なっていたものづくりカイゼンセミナーに製品開発の手法を学ぶ講座を設定し、「ものづくり革新・改善のための人材育成セミナー」としました。講座構成の変更は以下の通りとなります。</li> </ul> <p>(旧)品質管理⇒(新)「品質管理」</p> <p>(旧)生産管理Ⅰ・Ⅱ⇒(新)「生産管理」に統合</p> <p>(旧)人間工学・安全工学・保全⇒(新)「安全・保全」（産業用ロボットの安全追加） ⇒(新)「人間工学・UX」に分離</p> <p>(旧)コミュニケーションスキル向上 ⇒(新)「コミュニケーションスキル向上」</p> <p>(旧)ものづくりカイゼンの進め方 ⇒(新)「ものづくりカイゼンの進め方」</p> <p>○この講座に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>専門課程での単位互換はない。</li> <li>この講座を受講することで、産業技術専攻科ものづくり改善コースの「コミュニケーションスキル」の受講を一部免除する。</li> </ul> <p>○講師と講座について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ものづくり革新・改善のための人材育成セミナーを担当する講師は大学・大学院で経営工学を専攻し、その後10年以上にわたり企業の生産現場などの改善に取り組んできています。また、このセミナーは社会環境の変化や講師が生産改善に取り組んだ成果などに基つき数年に一度大きな変更を加えながら10年以上開講し、延べ500人以上の方が受講しています。</li> </ul> <p>*例年、定員を超える申し込みを頂いているため、最大受け入れ人数を12名とした。</p>					